

電力を活用した高齢者見守りで地域づくり

株式会社ウェルモ 竹田庸介



提案の背景

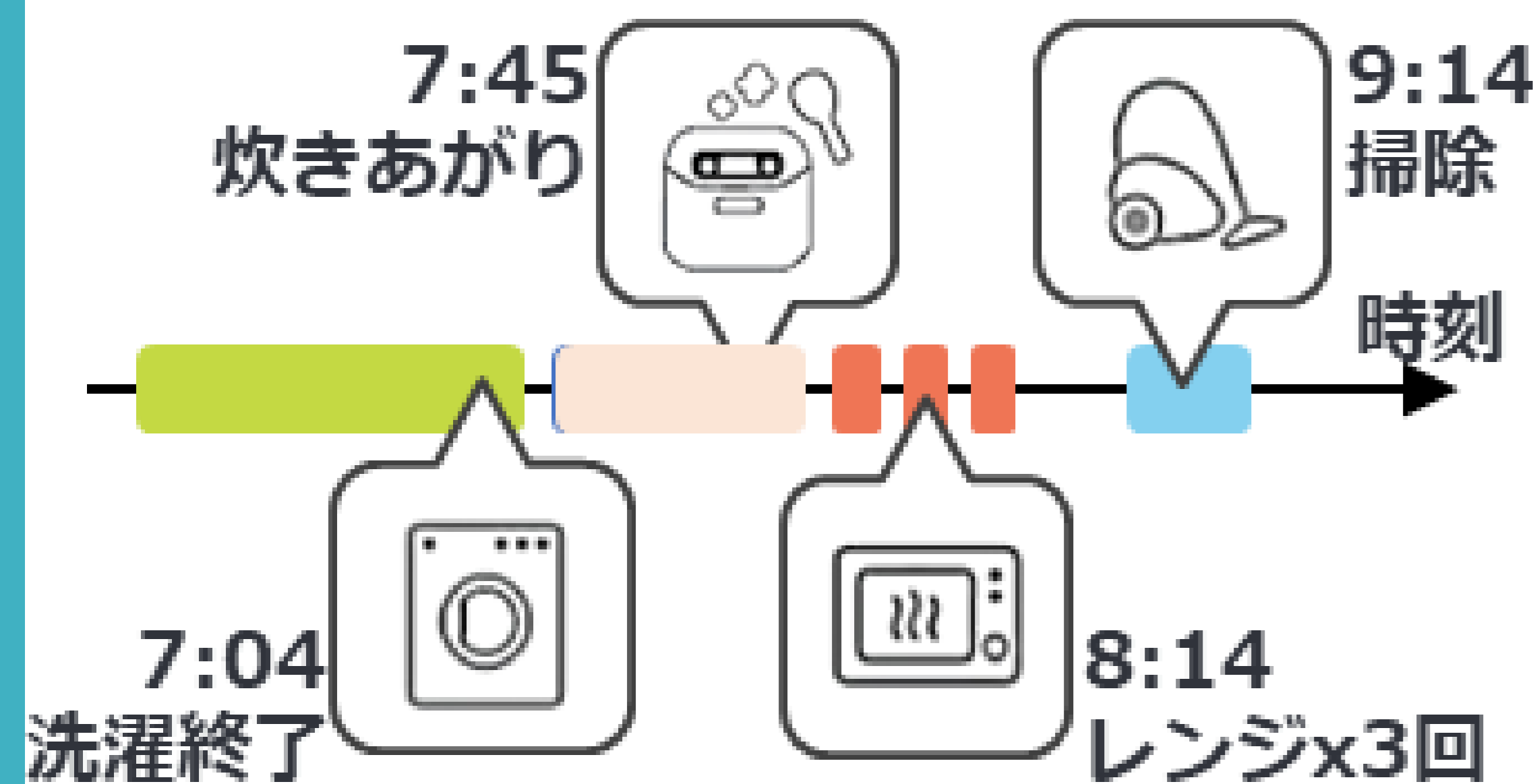
つくば市では、要介護等になってしまったとしても自宅で生活したい人が圧倒的に多く、年々、65歳以上の一人暮らし世帯が増加しているため、在宅介護の重要性が高まっており、地域で高齢者を支える仕組み作りが急務となっている。

しかし、在宅時の高齢者の様子を細かく把握、見守ることは困難であり、在宅介護の課題になっている。

トライアル概要

居宅内生活行動モニタリングシステム

家電をいつ使ったか分かる



分電盤に1つセンサーを付けるだけで、家庭内の家電利用を知ることが可能。検知した電力使用データ、生活データをモニタリングAIが行動推定データとして提示することにより、**居宅内の高齢者の生活リズムを「見える化」**する。

今回のトライアルでは、電力・センサーを活用した居宅内生活行動モニタリングシステムを用いて、①独居高齢者の生活リズム、生活実態を見える化し、②支援者へ生活行動アドバイスの提案を行うことにより、利用者のニーズに沿った介入やサービス提供が促進され、在宅介護の質が向上されることを目指す。

また、本データを高齢者を支える家族、地域の介護従事者、医師等が共有することにより、高齢者の生活実態を把握した上で、適切なサポートが可能となる。加えて、同じデータを共有することで、多職種間連携が促進され、地域で高齢者を支える仕組み作りに寄与する。

期待される効果・実現する未来社会

要介護や要支援になってしまったとしても、住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることを可能にするモニタリングシステム。カメラ等を使用しないので、プライバシーに配慮し、直接の接触を避けるシステムであるため、常時～非常時の切れ目ない見守り、支援が可能となり、独居高齢者の方でも安心して暮らせる地域社会の実現を目指します！



SDGs達成への貢献